

「きぼう」の打ち上げ

立川 敬二
(大垣出身 大垣北高卒)

「ドローン、バリバリ・・・」という轟音を立て、夜空を真昼のごとく明るくして、スペースシャトル123号は、日本の土井隆雄宇宙飛行士と実験棟「きぼう」の保管室を載せて宇宙へ飛び立った。時は、2008年3月11日午前2時28分(米国時間)、

米国フロリダ州にあるケネディ宇宙センターで、シャトルの打ち上げに立ち会うことができた。この日は世界主要15カ国が共同で建設している「国際宇宙ステーション(International Space Station:ISS)」に、日本の施設が初めて設置される記念すべき日でもあった。

続いて5月31日午後5時2分(米国時間)には、星出彰彦宇宙飛行士と「きぼう」の本体・船内実験室が打ち上げられた。日本が1985年にISS計画に参加して以来23年の月日が流れていた。ISS計画の進捗には紆余曲折があった。1986年チャレンジャー号の爆発事故で頓挫し、1990年代にはロシアの参画で、計画が大

幅に変更され、1998年漸く建設が始まったが、2003年にコロンビア号の事故で再度頓挫した。しかしながら関係国は一致団結してこれらの問題に対応し、現在、2010年の完成が見えてきた。長さ100メートル、幅70メートルの巨大な人口構造物が地上400キロメートルの上空を、秒速8キロメートルの速さで飛行している。

我々人類の目標は、宇宙ステーションの構築だけには止まらない。この実験施設を活用して人類が宇宙で生存するための知恵を獲得し、かつ物質科学や生命科学で新しい知見を得ることである。日本は「きぼ

う」を使って2010年までの第1期で約100件の実験を予定している。現在、宇宙飛行士3名が長期滞在しているが、2009年からは6名体制になる。2009年に若田光一飛行士が3ヶ月滞在、その6ヶ月後には野口聡一飛行士が6ヶ月滞在する予定である。そして2015年までにはさらに4回の長期滞在を予定しており、日本の宇宙飛行士の活躍が大いに期待されるところである。

日本の実験棟「きぼう」が打ち上げられて、我々日本人のみならず、世界に新しい希望が膨らむことを期待している。



イメージ写真

投稿募集

この頁は「会員の頁」と称して、会員の皆様の投稿を掲載していきます。是非皆さんの声をお寄せください。投稿には氏名・連絡先・出身地・出身高校をそえて官製はがきでお送りいただくか、同様の内容を原稿用紙に記入いただき封書でお送りください。インターネットをお使いの方は、eメールでお送りいただけると助かります。是非、微笑ましい写真なども添えてご投稿ください。尚、原稿料は御支払できませんので予めご了承ください。

連絡及び問合せ先

東京岐阜県人会事務局
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館14F
Tel. 03-5212-9020
Fax. 03-5210-6871

Email: info@apgifu.net